5　大苗疎植実験

担当者　野辺地営林署造林係長　大間皎三

開発期間　昭和43年～48年

経費

開発目的

スギ大苗疎植の実行における、育苗、育林上の問題点および経済性を究明するとともに成績調査を行ない、大苗疎植造林の可能性を実験する。

（47年度調査項目は成績調査である。功程経費の資料は45年度研究発表集録に掲載）

開発計画

46年度と同一につき省略

実施経過

1. 44年度植付実行分の経過

(1) まき付（自署）　41年春

(2) 床替　42年〃

(3) 〃　43年〃

(4) 植付　44年5月12日

(5) 面積　0.10 ha

(6) 本数　スギ　300本

(7) 43年度は試みに30～40㎝の山行可能苗を再床替した結果苗高 $\frac{80}{70\sim120}$ ㎝の苗木を生産して山出した。

(8) 植付後下刈は実行していない

2. 45年度植付実行分の経過

(1) まき付（自署）　42年春

(2) 床替　43〃

(3) 据置　44〃

(4) 伐採前地ごしらえ（薬剤）42年度

(5) CT－35トラクタにより整理地ごしらえ（刈払機も併用）

同時に準備植穴掘を実施　44年10月

植　　付　　４５年４月２２～２３日　大苗　1.００ha
普通　0.５０

(7) 下　　刈　　植付後実行していない

3. ４７年度成績調査

開　発　結　果

1. ４７年度樹高調査結果

(1) ４４年度植付実行の分

項　目	調査A 本　数	B 当初樹高	44年度C 樹　高	45年度D 樹　高	46年度E 樹　高	47年度F 樹　高	44～47G 年度伸長量	H＝G÷B×100
大　苗	92	40.7 cm / 36～65	106.0 cm / 54～185	146.7 cm / 90～250	181.7 cm / 119～304	246.2 cm / 145～400	205.5 cm / 109～335	505 %
普通苗	91	38.8 cm / 22～59	69.8 cm / 13～101	108.9 cm / 35～160	124.8 cm / 64～210	187.6 cm / 85～249	118.8 cm / 63～190	384 %

(2) ４５年度植付実行の分

項　目	A 調査本数	B 当初樹高	C 45年度樹高	D 46年度樹高	E 47年度樹高	45～47 E 年度伸長量	H＝F÷B×100
大　苗	145	64.5 / 50～71	108.9 / 62～152	151.4 / 79～236	207.6 / 105～320	143.1 / 55～249	222 %
普通苗	129	43.4 / 20～65	94.6 / 42～134	132.1 / 70～190	176.9 / 105～260	133.5 / 85～195	308 %

2. 考　　察

４４年度実行分と４５年度実行分の伸長量について分散分析したがいずれも有意差は認められなかった。